

令和7年度 京都府立綾部高等学校東分校（全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） （実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
<p>1 3Q+4Sの推進 3Q【Quality Teacher】教師としての資質向上 【Quality School】教育内容の充実 【Quality Students】未来を切り拓く人材の育成 4S【整理】【整頓】【清潔】【作法】</p> <p>2 A・G・P 【Ayabe Global Program】の推進</p> <p>(1) 高い人権意識に基づく教育活動の推進 ・自他の生命と人権を尊重し、多様な価値観を認め合う姿勢の育成 ・農業教育を通じて、自然や命への敬意を持ち、人や地域とつながる姿勢の育成 ・日々の学校生活や地域活動の中で、一人ひとりを大切にす実践的な指導</p> <p>(2) 自らの生涯を豊かにする力の育成 ・将来の進路を見据え、自ら考え挑戦する力を育む教育環境の整備 ・農業や地域の課題を題材にした探究的な学びを通じ、課題発見・解決力を高める指導の充実 ・生涯にわたって学び続ける姿勢を養い、地域社会での活躍や貢献を目指す人材の育成</p> <p>(3) 社会に通じる力の育成 ・農業教育を基盤に、コミュニケーション力や協働力を身に付ける教育活動の推進 ・地域社会や産業界との連携を深め、実践的な学びを通じた「自己肯定感」の醸成 ・仲間と共に目標に向かって協働し、挑戦し続ける姿勢を支援する学校づくり</p> <p>(4) 教育環境の充実 ・生徒が安心して学び、挑戦できる教育環境の整備と安全管理の徹底 ・家庭や地域、産業界、関係機関と連携した教育活動の推進による課題解決力の向上 ・ICTを活用した校内外の協力体制の強化と、教育活動の発信を通じた理解促進 ・農業教育の専門性を活かした教育活動の成果を積極的に発信し、地域とのつながりを深める広報活動の推進 ・教職員の協働を促進し、働き方改革に基づく効率的かつ質の高い教育活動の実現</p>		<p><成果> ◇「スクリレ」、学校HP、SNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行うことができ、教育活動アンケートでも「学校の様子がよくわかる」との回答を得た。 ◇学校案内やキャンパス通信、学校ポスターを作成し、学校の様子を広くアピールすることができた。 ◇全学年で学習用端末を活用した授業が行われるようになり、教職員のICT機器活用能力が向上した。さらに効果的な活用方法について研修を深めることができた。 ◇年度内に進路実現100%を達成することができた。 ◇ケース会議が定着し、学年、教科、カウンセラーと十分な連携を持った上で適応指導会議を開くことができた。 ◇即売会、東祭、ゆらキャンマルシェなど、多くの来場者で盛大に実施することができた。 ◇学校行事において、他学年と協働して取り組む姿勢が見られた。 ◇様々な事業を活用し、外部講師による専門的な授業、体験的・実践的な授業が多く展開できた。DXハイスクールでは、スマート農業機器やデジタル機器の導入ができた。</p> <p><課題> ◆定員割れが続いており、さらに魅力を発信し、受検生の増加につなげたい。 ◆定期考査のあり方の見直し、学力定着・向上につながる授業・評価のあり方を検討していく必要がある。 ◆頭髪・身だしなみ指導に課題がある生徒が一定数いる。粘り強い指導を行い、制服の正しい着こなし等ができるように継続した指導を行う。 ◆3年次後半での進路希望の変更が見られた。2年次2学期頃には進路希望を固めるような指導を進めたい。 ◆農業クラブ活動のさらなる充実を図る。 ◆生徒指導事象や進路変更が見られ、安全で安心して学習に取り組める学習環境づくりを進める必要がある。</p>	<p>■重点1 魅力ある学校づくりと業務のスリム化の両立 ・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化 ・教育DXの促進により、教育活動と事務の効率化を推進 ・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出</p> <p>■重点2 充実した学びとキャリア教育で未来を切り拓く力を養う ・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実 ・探究的な学習活動の一層の推進により、生徒の課題発見・解決力を育成 ・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添った進路支援を展開し、主体的な進路選択を促す</p> <p>■重点3 生徒一人一人の成長を支える温かな指導 ・自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開 ・多様性を尊重した支援体制の構築により、すべての生徒が安心して学べる環境を整備 ・規範意識と自律を促す生徒指導を推進し、主体的・協働的な態度を育成</p> <p>■重点4 協働の喜びを実感する特別活動の創出 ・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進 ・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供 ・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む</p> <p>■重点5 地域とともに未来を描く開かれた学校の運営 ・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用 ・学校の魅力や特色を発信する広報活動を積極的に展開 ・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
業魅力のあるリ学ム校化の両立	・課程間、キャンパス間、分掌間、教科間等の連携、協働を基盤とした学校運営の深化	課程やキャンパス間で連携・協働し、より効率的で効果的な校務運営を目指す。	B	●リモートでの職員会議が定着し、キャンパス間の移動時間削減につながった。老朽化した施設・設備の修繕・更新も行った。 ●各学科・専攻の学びを深め、様々な進路選択に対応したカリキュラム編成を行うことができた。今後は教科横断的な取り組みの推進について検討したい。 ●学校祭は生徒指導部間で連携して取り組むことができた。学校祭運営会議では、次年度に向けて、効率的・効果的な運営方法について検討できた。 ●HR運営会議で各種行事の調整を行い、関係分掌間と連携した行事運営ができた。 ●DXハイスクール事業では、環境監視システム付草花ビニルハウスを整備し、授業で使用できる状態にできた。 ●取得した資格や各種大会参加・表彰等の情報を校務システムで一元管理し、進路指導をはじめ分掌・教科での生徒指導に活かすことができた。 ●加工室や実験室に導入した手元カメラ・プロジェクターを活用した技術指導、講習会を行うことができた。 ●センター研修等の受講者は少なく、さらに研修情報の提供が必要である。 ●公開授業期間は設定しているが、参観者が少ない。参観しやすい環境を設定するなど改善が必要である。 ●全校生徒対象の人権講演会が実施できた。今後は、生徒の実態や状況に応じた学年・HR単位での人権学習を行い、さらに人権意識を醸成していった。
		特色を活かしたカリキュラム編成と教科等横断的な学習により、生徒の学力向上と学習内容の深化を図る。	B	
		各種行事や取り組みについて、事前調整を丁寧に行う等、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に努める。	A	
	・教育DXの促進により、教育活動と事務の効率化を推進	DXハイスクール事業を活用し、農場を中心に施設・設備のスマート化・DX化を図る。	B	
		校務システムの活用範囲を広げ、学年部と各分掌の情報共有の効率化を図る。	A	
		スマート化・DX化した施設・設備を活用し、特色化事業等の各種事業を効果的に実施する。	A	
	・教職員の専門性向上を支援する研修体制の充実と、校内外の学び合いの場の創出	校内外の研修情報を提供し、教職員の指導力向上を支援する。	B	
		公開授業期間を通じて、教職員間の意見交流の機会を増やし、学校全体で更なる魅力あふれる授業展開を目指す。	C	
		人権意識や教養向上を目的とした、講演会・研修会の企画・運営に努める。	B	

<p>充実した学びとキャリア教育で未来を切り拓く力を養う</p>	<p>・各課程、学科、コースの特色を活かした学力向上のためのプログラムの充実</p>	各学科の特色を発揮し、進路実現につながる魅力ある教育活動を展開する。	B	B	<p>●生徒間の基礎学力の差が激しく、教科指導や進路指導に様々な影響が出ている。個別指導の充実や支援体制の再構築などの必要性がある。 ●即売会やゆらキャンマルシェなどの異年齢層との活動が活発化し、生徒個々のコミュニケーション能力を充実させることができた。</p>		
		様々な講演会や説明会を通じて、進路に対する関心や意欲を高める。	B				
		基礎学力保障の取組を通じて、基礎学力の向上・定着を目指す。	A				
	<p>・探究的な学習活動の一層の推進により、生徒の課題発見・解決力を育成</p>	各学科・専攻のプロジェクト学習や課題研究などで探究活動を充実させ、生徒が主体的に問題解決に取り組む態度を育成する。	B	B		<p>●学習発表会や課題研究発表会など、研究成果を発表する場を設けたことより、より充実した探究活動を実施することができた。さらに、研究成果を外部に発信する場を検討すべきである。 ●進学者の大部分が専門学校である現状を打開したいが、改善できていない。</p>	
		意欲的に学ぶ力をつけ、高い進路目標を設定・達成できるように支援する。	B				
		探究的な学習で身に付けた主体的に学ぶ力と課題を解決する力を進路選択や将来設計に活かせるように支援する。	A				
	<p>・生徒一人ひとりのキャリアビジョンに寄り添った進路支援を展開し、主体的な進路選択を促す</p>	教科担当者会議等で生徒の情報共有を図り、各教科の学びの個別最適化を支援する。	B	B		<p>●各定期考査後に教科担当者会議を実施し、生徒の学習状況に関する情報共有や必要な手立て等の検討を行うことができた。 ●9割以上の生徒が就職内定・進学先への合格をしているが、生徒や保護者等の考えが多様化する中、進路実現100%達成は至難である。</p>	
		希望進路の100%実現に向けて、求人開拓や就職・進学指導を進める。	B				
		進路希望に応じた情報提供を行い、早期に主体的に進路選択ができるように支援する。	A				
<p>生徒一人一人の成長を支える温かな指導</p>	<p>・自他の尊重とコミュニケーション力を育む教育活動の展開</p>	互いの人権を尊重し、いじめや暴力を許さない態度を涵養する。また、毎学期いじめアンケートを実施し、結果について会議を行い全体で情報共有をする。	B	B	<p>●毎学期いじめアンケート実施といじめ対策会議を開催し、生徒情報の共有を図った。いじめを疑うような行動をしている生徒やアンケートに回答のあった生徒に対し聞き取りや対策を行うことができた。 ●スクールカウンセラーや外部講師を活用した保健学習を実施することができた。 ●クラス・学年・学科等の単位で、互いに尊重して行事に取り組み、一定の成果をあげることができた。</p>		
		保健学習(薬や性教育など)を通して、自他を尊重する大切さを学習する。	B				
		学校行事やクラスでの取り組みを通して、互いを尊重し、コミュニケーション能力を身につける。	A				
	<p>・多様性を尊重した支援体制の構築により、すべての生徒が安心して学べる環境を整備</p>	挨拶、端正な身だしなみや整理整頓など基本的生活習慣の大切さをお互いが意識し、生活しようとする意識づけをする。	C	B		<p>●挨拶・身だしなみ指導など、毎日生徒に声をかけ、注意を促しているが、改善ができていない生徒が多数いる。進路指導や卒業後の生活のためにも、挨拶、適切な身だしなみ、持ち物の整理整頓など基本的生活習慣の確立が必須である。 ●まなび・生活アドバイザー(スクールソーシャルワーカー)の助言のもと、行政機関等と連携した支援や指導ができた。</p>	
		学年・学科・教科・関係機関と適宜連携し、組織的に支援や指導にあたる。	A				
		規則正しい生活習慣を定着させ、自分で考え行動できる力を身につけさせ、生徒一人一人に応じた進路指導・生活指導を他分掌と連携する。	B				
	<p>・規範意識と自律を促す生徒指導を推進し、主体的・協働的な態度を育成</p>	多様な視点から自己の言動を振り返らせる言葉がけを行い、社会規範を守ろうとする意欲を高める。全教職員で一致した指導方針で、ねばり強く指導し、学年部や家庭と連携して生徒の指導にあたる。	B	B		<p>●HRでの連絡や部長訓話などの機会を利用して、生徒自身に自分の言動を振り返らせる機会を設けることができた。 ●身だしなみについては課題が残るものの、全教職員で指導方針を共有し、学年部や家庭と連携して粘り強く指導に当たることができた。 ●年間3回、警察から講師を招いた講演会を実施し、薬物乱用防止や闇バイトに関わらないといった社会規範を守ろうとする意欲を高めることができた。</p>	
		環境を美しく保つ大切さに気付き、率先、協力して清掃活動に取り組む力をつける。	B				
		学校行事やホームルーム活動を通して協働できる集団作りを目指す。	A				
<p>協働の喜びを実感する特別活動の創出</p>	<p>・協働の精神を育む場としての学校行事を充実させ、生徒の成長を促進</p>	学校祭やスポーツ大会を円滑に運営し、生徒の主体的な取り組みを通じて、自己肯定感を高める。	A	A	<p>●学校祭やスポーツ大会では、3年生や生徒会を中心に、多くの生徒が主体的に活動に取り組み、自己肯定感を高める機会となった。 ●生徒会では、朝の挨拶運動に取り組んだ。 ●多くの行事で当初の目的が達成でき、生徒の成長につながった。</p>		
		年間行事計画やHR運営会議で学校行事を適切に配置し、充実した特別活動を展開する。	A				
		生徒が自主的・主体的に学校行事に取り組むよう支援する。	A				
	<p>・スポーツ・文化活動やボランティア活動など、多様な学びの機会の提供</p>	部活動の活性化をはかり、昨年度よりも部活動加入率を高める。	B	B		A	<p>●部活動の加入率は全部活動で67人(43%〔兼部を含む〕)である。昨年度は57人(36%)で微増傾向にある。 ●農業クラブ府連大会や農業情報処理競技会にて入賞をすることができたが、さらに上位の大会へ進めるよう指導していかなければならない。</p>
		農業クラブ活動を活発にし、各種大会や競技会での入賞を目指す。	B				
		生徒会や農業クラブ活動、ボランティア活動等の情報提供を行い、それぞれの活動への積極的な参加を促す。	B				
	<p>・国際理解・地域貢献活動を通じて、社会・地域とつながる意識を育む</p>	年間指導計画や全体計画に国際理解・地域貢献活動を適切に位置づける。	A	A		A	<p>●専門学科の取り組みを中心に、地元企業との連携や幼稚園・保育園児対象の農業体験など様々な取り組みを行うことができた。 ●ペットボトルキャップの回収活動を実施した。由良川クリーン大作戦への参加を呼びかけ、多くの生徒が参加した。また、困っている地域の方を助けた生徒もおり、感謝の言葉をいただく機会もあった。</p>
		ペットボトルキャップの回収活動や由良川クリーン大作戦への参加を呼びかけ、地域社会に協力しようとする態度を育成する。	A				
		地域の課題を解決する探究的な学習を展開し、地域に貢献する人材を育成する。	A				

地域 か れ と も に 未 来 の 運 営 を 描 く	・地域との連携を強化し、教育活動に地域資源を活用	地域との連携活動等、生徒が活躍できる場を多数提供できるように努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●分掌間で連携を密にとり、行事の変更など柔軟に対応することができた。また、今後は行事計画の見直しなど行い充実した特別活動を展開したい。 ●様々な事業を利用し、効果的に外部人材を活用することができた。 ●即売会、東祭、ゆらキャンマルシェなど多くの市民の方々に来校・来場していただき盛況のうちに終了することができた。 		
		外部人材活用等の地域資源を有効に活用した教育活動を展開する。	B				
		即売会や東祭など地域連携事業を充実させ、地域にとって魅力ある学校づくりを目指す。	A				
	・学校の魅力や特色を発信する 広報活動を積極的に展開	在校生や保護者・地域にタイムリーな情報発信に努め、広報活動を充実させる。	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ●教育活動に関するアンケートでは、保護者等の92%が学校の様子がよくわかると肯定的な回答をしており、タイムリーな情報発信ができた。 ●様々な媒体を通じて、特色ある教育活動を発信することができたが、学校HPでは新しい情報を提供できるように更新をより増やしていきたい。 	
		特色ある教育活動を記録し、学校HP、Instagram等を通じて地域社会に広く発信する。	B				
		学校案内やキャンパス通信、ポスター、マスメディア等、様々な媒体を用いた広報活動を展開する。	A				
	・地域社会との協働を通じて生徒募集活動を充実させ、地域に根差した学校づくりを推進	中学校訪問や関係機関との連携を通じて、生徒募集活動を充実させる。	A	B			<ul style="list-style-type: none"> ●オープンスクールに毎回参加する中学生も多く、アンケート結果からも教育内容に興味・関心を持っていることが読み取れるが、募集定員を確保するのに苦慮している。今後、生徒募集活動の内容について再検討したい。 ●園児との芋ほりや中2体験などを通じて、本校の教育活動を広く発信することができた。しかし、気候変動（夏場の高温など）により、これまでとは異なる栽培管理が必要な作目もあり、体験活動についても再検討が必要である。
		説明会や体験セミナー等の生徒募集活動を充実させ、募集定員を上回る受検生を確保する。	B				
		園児・小中学生に体験活動の場を提供し、農業教育の魅力を発信する。	B				
学校関係 者評価 委員 会 に よ る 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと答えている生徒が多いが、どのような点が楽しいのか、さらに調査すると、学校の魅力が絞り込めるのではないかと心配している。自分の考えを文章で表現できるような従来の指導も継続してほしい。 ・地域への情報発信はできている。定員割れに一喜一憂せず、生徒募集活動や地域との連携活動など、これまでの活動をさらにブラッシュアップして継続してほしい。 ・Instagramを楽しく見ている。中学生がどの程度見ているのか、オープンスクール等で調査してほしい。 ・DX化、ICT化、AIなど、新しい技術がどんどん発達してきている。使いこなすには、教職員の学びが必要である。新しい技術を先生が使ってみないと、生徒たちに指導できない。研修といった堅苦しいものではなく、とにかく使ってみるといったチャレンジ精神が大切である。 ・生成AIに頼りすぎると、生徒たちの文章を書く能力が身に付かなくなるのではないかと心配している。自分の考えを文章で表現できるような従来の指導も継続してほしい。 ・京都府北部全体が定員割れの状態である。希望をすれば入学できるので、中学生は行きたい学校に行けるようになっている点は良い。 ・全ての課程で地域資源である外部人材を効果的に授業に取り入れられている。特に定時制は、外部人材を活用した楽しい授業を多数展開できている。 ・京都府農林水産技術センターの綾部への移転が決まっている。農業関連学科での連携の方向性を検討してほしい。 ・福知山公立大の学生など、若手の外部人材との交流は高校生にとって魅力的だと思う。課程・学科を問わずに、さらに活用してほしい。 						
次年度に 向けた改 善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の評価、教育活動に関するアンケート（保護者・生徒）とともに、おおむね肯定的な回答や良い評価が多く見られる。成果はさらに伸ばせるような取組を進め、課題は1つ1つ改善していくことで、さらなる魅力化を図る。 ・DXハイスクール事業では、ハード面の充実を図ることができた。次年度は、それらの施設・設備を活用した講習などを行いデジタル人材の育成を進める。 ・教職員の研修受講や公開授業での参観者が少ない状態である。研修や公開授業に参加しやすい状況となるような方策が必要である。 ・ここ数年、制服の着こなしや身だしなみに課題が見られる。継続して、粘り強く指導していく必要がある。 ・卒業式後に進路決定した生徒が見られた。早期に進路希望を固めるよう、1年次、2年次からの情報提供や進路面談を進める。 ・多様な生徒に対応するため、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザー、外部機関との適切な連携を進める。 ・農業クラブ活動、地域連携活動では、来場者が多すぎるという新たな課題に直面している。校外に駐車場を確保するなど、安全に配慮した工夫が必要である。 ・進路変更や原級留置、中途退学は少なく、安全で安心して学習に取り組める学習環境づくりを進めることができた。 ・次年度は募集定員を大きく下回る入学者数となった。オープンスクールでの発信内容のブラッシュアップ化、中学生に魅力的な学校となるように、さらなる工夫が必要である。 						